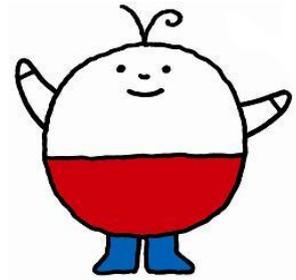


《長野市》 長野市ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒380-0813 長野市大字鶴賀緑町1714-5 長野市ふれあい福祉センター内			
電話 F A X	026-227-3707	026-224-1513		
電子メール	volucen@vnetnagano.or.jp			
H P アドレス	http://www.vnetnagano.or.jp/			
職員数	正規	2名	嘱託	5名
	臨時	1名	その他	—
開所日と時間	平日 8:30 ~ 21:30			
	土日祝 9:00 ~ 17:30			
情報誌	ボランティアかわらばん			
	毎月1回発行			
来所者数	年間 約65,000名			



いつも君（ボラセンキャラクター）

〔センターの運営方針・指針等〕

- ・今までの取り組みを深める（まちの縁側、コーディネート力養成講座）
- ・今までの成果、モデルの活動をまとめ可視化する
- ・講座、企画をモデル地区で実施する
- ・コーディネート力養成講座をベースに実施する

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	登録団体は無料
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	丸テーブル及びソファセット2組、お茶、市民文庫（市立図書館から毎月貸与及び寄付蔵書）
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	コピー機（1枚7円）、印刷機（マスター代50円）、プロジェクター・スクリーン（無料） 対象者：登録団体
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	体験用具（白杖、アイマスク、展示版、車イスなど） 対象者：登録団体及び学校
登録グループの専用ポストの設置	<input type="radio"/>	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	有	規	約	有
名称	長野市ボランティアセンター運営委員会			
委員構成	ボランティア市民活動家を中心に関係機関より若干名の委員を依頼。要綱上定員は20名以内。現在は18名。			
事業への関わり	「行動する運営委員会」を掲げ、委員会の出席にとどまらず、担当するプロジェクトの検討会へ参加し、企画立案を共に行っている。			
工夫点	年6回定例委員会を開催し、その時々の課題について運営委員長がファシリテーターとなり、委員・スタッフ全員が意見を述べ合う「丸い会議」を行っている。			
課題点	運営委員各々が多忙なため、日程をあらかじめ決めておいても都合が付かない場合が多い。			

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	休会	規	約	有
名称	長野市ボランティア連絡協議会			
協議会構成	現在、再興中			
工夫点	—			
課題点	本来の親睦と交流を軸とした緩やかな連絡協議会として再興し、徐々に全体のイベント等の企画運営ができる力をつけていけるよう焦らず取り組んでいくよう協議していきたい。			

〔財源〕

人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	—	—	○	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	○	○	○	—	—
					寄付・ボランティア基金
					長野市保健福祉部厚生課

〔業務及び事業について〕

ボランティア活動支援

相談・コーディネート	○	—
ボランティア保険加入事務	○	—
ボランティア・NPOへの助成	○	共
各種情報提供	○	委

広報・啓発

ボランティア広報誌・情報誌の発行	○	—
ホームページの運営	○	—

相互交流・ネットワークづくり

ボランティアの集い	○	—
各団体の活動をポスターにして紹介。参加者同士の交流を図った。企画・運営は実行委員会。		
ふれあい祭り等の開催	○	—
実行委員会による企画・運営 各団体の活動発表やバザー等		

ボランティア講座

未経験者向け	○	—
コーディネート力養成講座で対応 学校・病院・施設等からの養成により職員を派遣		
活動者向け	○	—
コーディネート力養成講座で対応		

その他の事業

サマーチャレンジボランティア	委・他
中学生以上の若年層による夏期休暇中のボランティア体験プログラム	
まちの縁側事業	委
まちの安心居場所づくりとしての「まちの縁側」立ち上げ支援。育む講座、フォーラムの開催。	
ボランティア・市民活動支援ネットワークとの連携	独・民
支援ネットワークは、地域から、ボランティア・市民活動をすすめるNPOにさまざまな経営資源を提供し、NPOの経営的基盤の強化を図ることを目的としている。	
やまびこテレホンサービスの実施	共
視覚障がい者向けに身近な情報を6分間にまとめ、自動応答電話によって提供。	

福祉教育・ボランティア学習

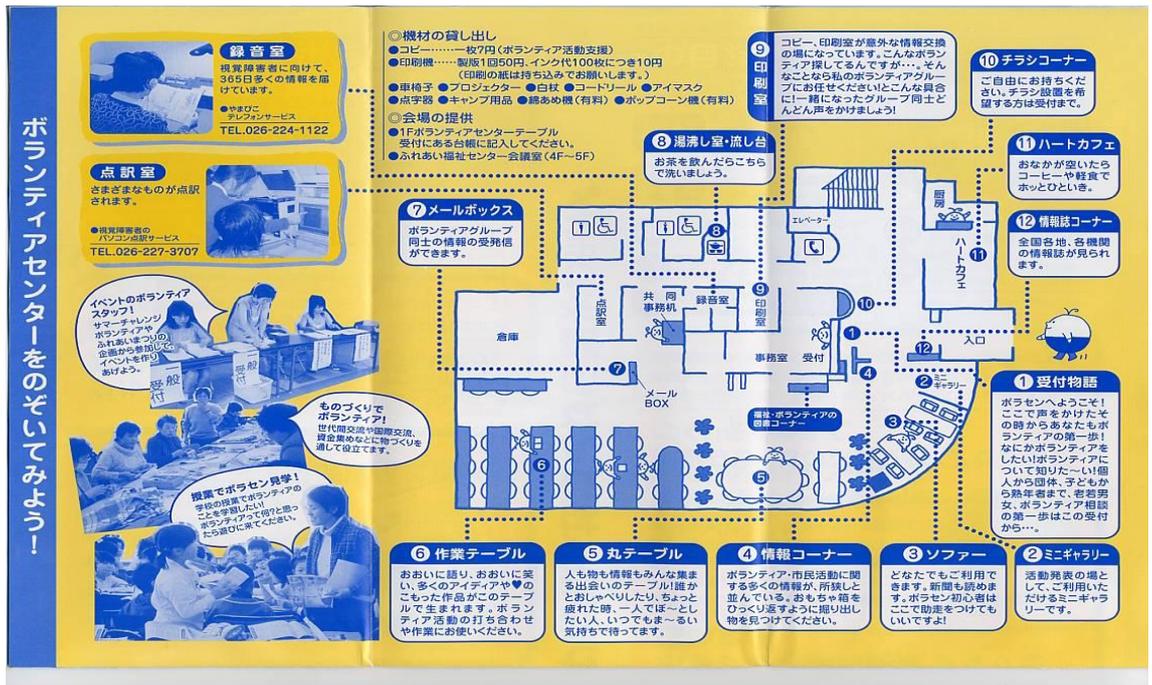
小中学生対象	○	—
綿内小学校5年礼組住民ディレクター講座 講師：岸本 晃氏		
高校生対象	○	—
市立長野高校、長野南高校、清泉女学院中学 高等学校福祉教育活動への協力		
大学・短大・専門学校生対象	—	—
—		
教員・学校関係者対象	○	—
・福祉教育普及校連絡会議 福祉教育普及校事業を申請する小・中・高等学校の担当者との打合せ会 ・福祉教育研究会 計3回開催し、福祉教育のあり方を研究		
一般対象	○	—
シニアアクティブルーム 「シニアのために地域デビュー講座」 職員派遣		
福祉教育協力校への助成事業	○	—
総 額	1,470,000円	1校あたり 30,000円
小 学 校	33校	中 学 校 10校
高 等 学 校	5 校	そ の 他 2校 (養護学校)

ボランティアセンター利用者会議	—
年に1回ボランティアセンター利用者代表と、センター利用について協議。	
雪かきボランティア「スノーバスターズ」	—
自力で雪かきのできない世帯に対し、事前に登録したボランティアを派遣。	
—	—
—	—
—	—
—	—

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	運営委員会や連絡協議会等の意見を集約し立案している
○センターにおける中長期計画について 独自の中期計画・アクションプラン等を作成していますか？	「長野市ボランティアセンター(2013年)のあるべき成果」5ヵ年計画による活動の到達点とビジョン達成のための手だて(戦略)をもとに、年度毎の事業方針及び事業の柱立て
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	「地区ボランティアセンター」「地区ボランティア室」 運営主体：地区住民自治協議会 内容：地区におけるボランティアの拠り所としてのセンター
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
—	—
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター(拠点)を持っている。 ・多くの社会資源をつながる。 ・ボランティア市民活動とのネットワークがある。 ・コーディネーターが7人いる。 ・開館日が多く、開館時間も長い。 ・ボランティアセンターを支えるボランティアがいる。 ・運営委員がセンター事業へ参画する。 	<p>《弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併により市域が広がり、小地域の活動が把握しにくい。 ・同フロアに所属が無いため、他の係との連携が少々弱い。 ・また、行政とも直接連携する機会も少ない。

○VC見取り図



○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	コーディネート力養成講座
目的	さまざまな課題を受け止め、ボランティア・地域活動をつなぎ、ひろげ、企画する「力」を持つ人を各地に育てるための養成講座。
開催頻度	年間 15 講座
内容	<p><各講座内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに必要なコーディネート力 ・地区の地域福祉活動の実際を知る ・ボランティアコーディネートするとは ・地域づくりのための組織の運営 ・ファシリテーションで合意形成 ・コーディネートに必要な受け止める力 傾聴の基本を学ぶ ・活動を記録し伝える住民ディレクターをめざして ・コミュニティソーシャルワークの基礎 地区活動計画の作り方 ・まちの縁側実践講座 ・市ボランティアセンターが果たす地域福祉の未来 ・コミュニティソーシャルワークの実践 ・活動プログラムの実際 ・ネットワークをつくる ほか
対象者	ボランティア・市民活動のコーディネート力を高めたい人
企画のポイント 事業成果	長野市ふれあい福祉センターへ受講生を集める講座から、なるべく現地へ出向き、地域の人々の参加を促して実施した講座によって、地域にボランティア・市民活動の種を蒔くことができた。
参加者の声や その後の動き など	当初は、難解な用語に戸惑っているようであるが、自分あるいは地元を想定した講座となり、真剣に取り組んでいる。また、講座が契機となり地域で新たな活動が生まれている。

事業の様子



現場へ出かけてコミュニティソーシャルワーク講座



コーディネート力養成講座